

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙
第194号
19. 2 .25

Contents

表紙

・あらたな局面を迎える遺伝子操作による食品改造

P3

・活動報告 菜食ファーム大谷さんの畑訪問/白みそ作り/山名酒造生産者訪問
・職員紹介 ・サークル紹介

P2

・知らないうちに食卓にのぼるゲノム編集食品

P4

・大きく育て福社の樹「エスコープ大阪の子育てひろば」
・エコロ給付状況報告
・子育てひろば案内・理事会報告
・おたよりネット・編集後記

あらたな局面を迎える 遺伝子操作による食品改造

1996年にアメリカで遺伝子組み換え(以下、GM)作物の商業栽培が始まって以来、エスコープ大阪ではGM反対運動が続いています。生活クラブを含む消費者団体等の反対運動により、これまで国内での商業栽培はおこなわれていません。ところが昨今、遺伝子操作の新しい技術として「ゲノム編集」が生み出され、急速に開発が進んでおり、その安全性の検証や規制、倫理観が追いついていない状況です。世界や日本の対応はどうなっているのか、長年にわたりGM反対運動に関わってきた生活クラブ連合会の前田和記さんにお話を伺いました。(聞き手:環境担当常務理事 泉 容子)



生活クラブ事業連合
生活協同組合連合会
企画部 部長

前田 和記さん

遺伝子操作することの問題点は同じ

泉 ゲノム編集技術は、GM技術よりも精度が高く、GMとは違い外来遺伝子を挿入しない方法もあります。しかし、遺伝子操作技術に共通する問題として、遺伝子操作の過程で遺伝子が傷ついて想定外の問題が起きることは否定できません。ゲノム編集作物がいったん自然界に出てしまえば回収は難しく環境に影響を及ぼす危険性があることや、化学薬品会社が種子を支配することで生物の多様性が失われる危険性など、GMと同じ問題が起こりうると考えられます。

生活クラブでは、ゲノム編集を含め「遺伝子操作された原料は受け入れない」ことを原則としています。ですが、日本国内や世界での対応はどのように進んでいきますか。

前田 世界ではゲノム編集をGMとして規制するかどうかの審査が早急におこなわれています。EUはGMと同じと考え、ゲノム編集についても規制して

いくようです。しかし、アメリカでは外来の遺伝子を組み込まずにゲノム編集技術を使って品種改良した作物(以下、ノックアウト)はGMに当たらず、自然界で起こる突然変異と同じだとし、規制しないことを表明しました。

日本では慎重な対応が必要だとしてルール作りを先送りにしていましたが、世界の動向を受けて早急に検討会が開かれました。まずは2018年8月から環境省で環境に及ぼす影響について検討されましたが、バイオテクノロジー推進派のメンバーで占められた検討会は、ゲノム編集技術そのものの問題点を深く議論することもなく、既存するカルタヘナ国内法に照らし合わせて「GMに相当するか否か」という議論をわずか2回おこなっただけで、最初の提案文と何ら変わらない内容が最終決定として出されました。アメリカ同様、外来の遺伝子を組み込まないノックアウトはGMに当たらないとして規制しないというものです。続いて2018年9月から厚生労働省により、食品としての安全性について検討会が開かれています。環境省にならう結論が出る見込みです。そうなればゲノム編集は食品表示に関しても一切規制がなくなることとなります。生活クラブとして抗議の意見書を提出して

生産者と一緒になって初めて実現できる

泉 生活クラブでは、提携生産者とともにNON・GM原材料のトレーサビリティをしっかりと確保してGM作物と分別することでGM対策ができています。しかし、ゲノム編集技術がまったく規制されずに、開発しても報告がなければトレーサビリティできないのではないですか。

前田 アメリカでGM作物の商業栽培が開始された時もそうでしたが、飼料用トウモロコシなどはPHF(ポストハーベストフリー=収穫後農薬不使用)対策をしていたので同じように対応することでGM対策が可能でした。現在、消費材のほとんどの原材料についてGM対策ができていることから、既存の原材料を変えない限りゲノム編集作物を避けることは可能です。

とはいえ、肝心の提携生産者が「ゲノム編集技術を受け入れない」という共通認識を持っていないければなりません。実はGM対策の時の苦い経験があります。商業栽培が始まったのが1996年秋で、組合員は1997年1月には取り扱わないことを決定したのですが、生産者との確認が後になってしまったのです。生産者にとって

消費者の私たちにできること

は「寝耳に水」で、NON・GM原料の調達に苦労されました。対応できるようになったのが3年後の2000年です。対応できずに提携をやめる生産者も出ました。また、ゲノム編集については、輸人品だけでなく国内生産もありうることから、生産者との学習や話し合いをすすめているところです。生活クラブの消費材はもちろんです。市場での対策をすすめるためにも、生活クラブだけでなく多くの団体と連携して運動を広めていくことが大切です。

泉 種子の確保には長い年月が必要です。たとえば飼料用のNON・GMトウモロコシの確保には、開発に7年、種子の増殖に3年と、計10年の準備期間が必要です。その期間の食べる約束をして米国の提携生産者に作付け依頼をしています。私たちが消費者は現状を知り、これまで同様、NON・GMOを選び、消費材を食べることで、生産者と一緒に運動をすすめることが大切ですね。また、これからも、全国の同じ考えをもつ仲間たちと考えを共有し、さらに多くの私たちの問題提起をおこない、運動への参加を呼びかけていきたいと思います。

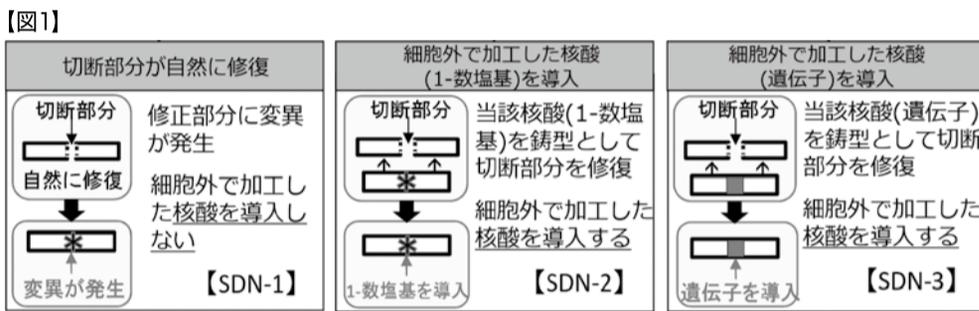
知らないうちに食卓にのぼるゲノム編集食品

ゲノム編集は、これまでの運や偶然に頼る不安定な技術である遺伝子組み換え(以下、GM)とは違い、目的の遺伝子を思い通りに改変できる精度の高い技術です。しかし、まだまだ発展途上の技術であり、予想しない場所の遺伝子を変えてしまうオフターゲット作用の問題も抱えています。遺伝子の解析が可能になったとはいえ、発現については未知なことも多く課題は多いです。また、企業による農業支配、生物多様性の減少、健康障害において、GM作物と同様の問題があることから、私たちはゲノム編集により遺伝子操作された生物や食品に反対します。

技術の進歩の裏で見過ごされる危険性

ゲノム編集とは、生命の設計図である遺伝情報を人工的に編集できる技術で、狙った遺伝子をピンポイントに「切ったり」「並べ換えたり」「貼り付けたり」自由に編集することが出来ます。ゲノム編集は昔からあった技術ですが、2012年に発表された「CRISPR/Cas9(クリスパークラスター）」という方法により、簡便かつ効率的な編集が可能になり注目されるようになりました。現在この技術の特許権は確定しておらず安価に使用でき、一定の知識があれば簡単に遺伝子操作がおこなえることから国内でもベンチャー企業が設立され、遺伝子操作された作物の市場への流通を狙っています。開発ばかりが先立ち、安全性の検証がおろそかになることが懸念されます。

作する方法は大きく3つに分けられます【図1】。SDN-1はDNAを切断し遺伝子の機能を壊すことからノックアウトと呼ばれ、SDN-2とSDN-3はDNAを切断した箇所に外来遺伝子や塩基を挿入するのでノックインと呼ばれます。人工的に遺伝子を改変した生物が自然界に出てしまうと環境や生態系への影響が懸念されます。特にノックアウトは自然に起こる突然変異と見分けることができません。



出典:ゲノム編集の概念の整理について(環境省 中央環境審議会 自然環境部会)

ゲノム編集技術による実例

現在主に開発がすすんでいるのはノックアウトによる付加価値を持つ生物です。ゲノム編集技術の先進国であるアメリカで開発された高オレイン酸大豆は販売段階に入っています。国内でも、粉の数や米

粒を大きくして収穫量を増やすイネや、血圧の抑制効果があると考えられるアミノ酸の一種を通常の4〜5倍多く含むトマト、筋肉を増強させて可食部分を増やした真鯛などが開発されています。例えば真鯛では、筋肉細胞の増加を促す遺伝子と抑制する遺伝子が備わっていて、相互作用により筋肉量を調整しています。その抑制遺伝子だけをゲノム編集により操作(無効化)することで筋肉量は制限されることなく増え続けます。

規制されずにまったくの野放し状態に

遺伝子操作技術の著しい進歩のために開発が進んでいる一方で、世界各国でルール作りが進められています。アメリカは2018年3月に、SDN-1により改良した作物を規制しないことを表明し、企業による開発も進んでいます。開発した作物の情報開示については企業の独自判断に任されています。日本は多くの食料をアメリカからの輸入に頼っていることから、知らないうちにゲノム編集作物が食卓にのぼることが懸念されます。また、アルゼンチンやチリでは、外来遺伝子が組み込まれていないことが確認されるSDN-1とSDN-2については規制の対象外とするとしています。一方でEUやニュージーランドではGM作物と同様ゲノム編集技術に対しても新たな遺伝子操作技術として規制をかけるとしています。

規制されずにまったくの野放し状態に

日本でもルール作りが始まっており、2018年5月よりゲノム編集技術により遺伝子が改変された生物が環境に与える影響について審議するために、環境省の「遺伝子組換え生物等専門委員会」のもとに検討会が設置されました。専門委員メンバーはバイオテクノロジー推進派数名で構成され、ゲノム編集技術そのものの問題点ではなく、遺伝子組み換え技術の利用を規制する「カルタヘナ法」が、ゲノム編集にも適用できるかの議論をわずか2回おこなっただけで「遺伝子を外部から組み込む方法は同法が適用できるが、遺伝子の一部を壊したり切断したりする改変(ノックアウト)は通常の自然界でも起こりうる」として規制の対象外とする」という結論を出しています。

消費材を食べ続けることが最大の運動

生活クラブでは、ゲノム編集技術による遺伝子改変された生物の商業流通が将来

始まる恐れに備え、国に対して、予防原則を基本とし、消費者の選択権を尊重するために原材料(種子を含む)の情報開示と表示、ゲノム編集技術で作出された作物・食品(飼料)の登録を求め意見書やパブコメを提出しています。また、政府への働きかけと同時に、まだ情報を知らない消費者に伝えることが必要です。私たちは生産者と提携することで自分たちの求める食材を確保してきました。これからもそれらの食材を食べ続けることで遺伝子操作された作物や生物を扱わない生産者を増やしていきたいでしょう。エスコープ大阪では3月を「GM食品反対運動推進月間」として取り組みます。全地域委員会がすすめるGM対策済みの消費材を利用することで運動をすすめていきましょう。

地域委員会がNON-GMOを推進!

所属の地域委員会ニュースでキャンペーン内容をチェック

地域名	キャンペーン消費材	生産者交流会/開催日
南河内地域	万能だし(500ml)	タイハイ(株) 2/26(火)
大阪狭山・河内長野地域	鶏ムネ肉	(株)丸本 2/25(月)
大阪市南・中河内地域	国産ブレンドなたね油丸缶	米澤製油(株) 3/1(金)
泉州地域	バニラアイス	新生酪農(株) 3/1(金)
泉北ニュータウン地域	餃子	美勢商事(株) 2/26(火)
店舗地域	木綿豆腐	(株)豆伍心 3/8(金)

河内長野・大阪狭山地域
**菜食ファーム
 大谷さんの畑訪問**
 2018年12月13日(木)
 大谷さんの畑
 (河内長野市下里町)

河内長野・大阪狭山地域理事
 糸川 江里子

大谷さんは「菜食ファーム」創

設時から生産者のひとりで、野菜以外にも梨や桃を私たちに届けてくれています。地域委員会では一昨年に、きゅうりの種付けから収穫までを体験させていただきました。その経験から生産者と思いや考えを共有することや、畑に足を運んで栽培環境を知ることの大切さを感じ、今回の訪問を計画しました。

大谷さんが作る白ねぎは2016年に理事会で『旬菜セット』の品目を充実させたいと菜食ファームと取り組んだ「チャレンジ品目」で、大谷さんの提案で試験栽培・供給し、現在旬菜セットで供給しています。今回の訪問では、白ねぎを収穫し、その場で炭火であぶって試食しました。苦みと甘みを感じられ、みずみずしい食感に参加者の顔もほころびました。



収穫体験の後は、大谷さん夫妻を囲



無謀では」と言われてしまったと、苦笑いをしながら話してくれました。鳥獣被害や台風の影響で梨や桃を十分に出荷できなかったことを大変残念に感じておられ、「待つてくれたい組合員がいるからもうひとがんばりしようと思う」と力強く話してくれました。

2019年度、河内長野・大阪狭山地域委員会では、「地域チャレンジ」として菜食ファームの後継者(就農者)を探す取り組みや、「地域チャレンジ品目」(地域ごとの提携品目)として新たな野菜の栽培を、大谷さんと歩みを共にしてすすめたいと考えています。ワクワクする1年になるように、地域委員会がリードしていきたいと思っています。

新たな出会いができました

生協の活動や生産者について知ってもらおうと、日本酒の生産者である「山名酒造(株)」を訪ねました。山名酒造は、江戸享保元年創業の300年以上続く酒造蔵です。現在の社長は11代目で、12代目候補も一緒に働いています。小さな酒造蔵だからこそ、昔ながらの製法と地元を大事にした酒造りをおこなっています。原材料は地元産にこだわり、酒米の半分以上は地元で穫れる「山田錦」や「五百万石」などを使用しています。



酒造りはとても繊細で、同じ品種の酒米でも

店舗地域
白みそ作り
 2018年12月8日(土)
 ファインプラザ大阪
 (堺市南区城山台)

店舗地域理事 谷口 景子

毎年恒例の「梅谷味

増醬油(奈良県吉野郡)の材料を使った白みそ作りを開催し、43名の組合員が参加しました。会場をこれまでの城山台地域会館から変更し、ファインプラザ大阪で初めての開催となりました。

お友だちやご家族と一緒に参加された方も多く、何度も白みそを作られているベテランの方や、初めての方もいました。「重石はどうするの?」「どれくらいで食べられるようになるの?」など疑問点は

周囲にいるベテランの方たちに尋ねながら、手を動かします。お子さんと一緒に大豆をミンサーで挽く風景はほほえましく、日本のみそ文化を次世代に継承していく大切さを感じました。



仕込んだ白みそは、どこで

みそ作りで深まる組合員同士の交流



どれくらいの間発酵させるのか、組合員同士で情報交換し、話が盛り上がりました。「別の容器に入れてリビング(室温約15℃)に置きっぱなしにして3週間ほどでできるよ」という人や、「この袋に入れたまま布団の中の足元に置いておく」という人。また、お風呂のふたの上で発酵させる人、カイロを使う人まで、いろいろな工夫をしてそれぞれのおいしい白みそが出来上がるのが分かりました。ちなみに、梅谷味噌の梅谷さんによると、温かい所に置いたり、湯たんぽなどで仕込んだ白みその温度を30度前後に保ち、10日間置くとできるそうです。後は冷暗所に保存します。

初めて会った組合員同士でもおみそを介して交流でき、みそ作りの文化の継承にもつながる梅谷味噌の白みそ作り。これからも続けていきたいと思っています。

置かずにAIで酒造りをしているところもあるそうですが、山名酒造では人の手で造るお酒にこだわっています。

見学の後には、生産者の説明を受けながらいろいろな銘柄のお酒を試飲しました。この時が参加者が一番生き生きとした時間かもしれません。今回の訪問では、生協活動や生産者について知ってもらうだけでなく、楽しい雰囲気や地域組合員同士の交流も弾み、今後の地域活動にもつながる新たな出会いの場となりました。今回の参加をきっかけに、今後の地域活動にもどんどん登場してほしいと思います。

綿を育て種をつないでいくという思いで活動が始まり、種のことや遺伝子組み換え(以下、GM)のことについて語りながら自分たちで栽培した綿を使って糸紡ぎをしようとして2015年にサークルを結成され、間もなく4年目を迎えます。



綿も自分たち

市民活動を応援!
サークル紹介
コットンサークル
 (代表: 西浦 麻理さん)



自分で作ることができ、手軽に糸紡ぎができるようになったそうです。うまく糸を紡げるようになるまでは少し苦労はありますが、慣れれば「飯作りを忘れるくらいに熱中し、癒されるので、メンバー内では「コットンセラピー」と呼んでいるそうです。

自ら綿を育てることで、なぜ綿花栽培では落葉剤や農薬が使われるのか、実体験を通して知ることができ、問題の一片だけを見た活動にならないようにしているそうです。GMや農薬の問題に興味がない人にも関心を持ってもらうきっかけを作るために、4月には自分たちで紡いだ糸を使った作品展も計画しています。もっと多くの人に活動を広めるためにも、まだまだ綿を育て紡ぐ仲間を募集しています。毎月第2水曜日にエスコープ大阪本部(堺市南区小代7-27)で活動していますので、ぜひ見学・体験にお越しください。

食に対する意識が変わりました



職員さんが自己紹介!!
久保 健太(36歳)
 エスコープ大阪在籍年数5年1ヵ月
 [共同購入フロア(泉北支所)]

組合員の皆さん、こんにちは。私は、前職も他の生協で働いていましたが、縁あってエスコープ大阪に来て早いものでもう5年となりました。大阪市北区の出身で、エスコープ大阪に入るまでは泉北地域に一度も来たことがなく、最初に配達を担当した地域の住宅街で何度も迷子になったことを懐かしく思い出

します。今では、地域名で場所が分かるほどエスコープ大阪になじんでいるつもりです。入協した当初は組合員さんからエスコープ大阪の昔のことや、消費材のことなど親切に熱心に教えていただきました。聞けば聞くほど、組合員さんのエスコープ大阪への熱意や愛着が伝わり、私もこの想いをいろんな人に伝えていこうと、現在も仕事をやる上で一番大事にしています。私も消費材が大好きで、毎日の食事が本当に楽しみになりました。作った人がわかる、過程がわかる、ありそうでない安心・安全をいろんな方にこれからも伝えていきたいと思っています。



第8回 理事会報告 <1月9日>

【11月度決算報告】

- 供給高 2億1,804万円(前年同月比109.9%)
- 組合員数 19,613名(前月比125)
- 一人あたりの出資金 78,728円

【12月の放射能検査結果】

12月は連合消費材895検体、エスコープ大阪独自の消費材2検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①役員定数について
- ②役員推薦委員会の設置について

【協議事項】

- ①2019年度エスコープ大阪方針案の決定
- ②エスコープ大阪 地場野菜取り組み答申
- ③エスコープまつり2018まとめ
- ④「第3回生活クラブ福祉・たすけあい研究交流集会」参加のための経費支出について
- ⑤「生活クラブグループにおける2030年温室効果ガス削減目標(案)」単協意見の提出
- ⑥「生活クラブでんき」2019年度連合会全体の契約目標の確認とエスコープ大阪の目標提案
- ⑦生活クラブ自然エネルギー基金(2019年度)助成申請について
- ⑧『豚肉料理 百一選 スライス編』増刷提案
- ⑨コスメ専門委員会次年度方針
- ⑩旬菜セットの利益率改定

【報告承認事項】

- ①2018年度上期サークル活動報告および2018年度下期活動継続確認の訂正
- ②東北大学の遺伝子組み換えイネの第一種使用等に関する承認に先立っての意見提出
- ③プラスチック資源循環戦略(案)に対する意見提出



エコロ制度 1月度報告

加入者数 1310名

給付状況	件数
組合員活動を支えるためのケア	1件
組合員活動中の共同購入品受け取りケア	0件
加入者本人の入院・通院在宅療養に伴うケア	1件
加入者家族の入院・通院在宅療養に伴うケア	0件
加入者本人の産前産後のケア	0件
長期に留守をする時のケア	0件
リフレッシュのためのケア	0件
儀式・行事に伴うケア	0件
高齢の加入者をサポートするケア	7件



エスコープ大阪の子育てひろば

日時	会場
3月13日(水) 10~12時	SAYAKAホール (河内長野・大阪狭山地域)
3月19日(火) 10~12時	さつき野東集会所(南河内地域)
3月6日(水) 10~12時	岬町望海坂第1集会所(泉州地域)
3月はお休み	和泉市コミュニティセンター (泉州地域)
3月5日(火) 10~12時	庭台台地域会館(泉北NT地域)

*開催時間内であればいつでも、帰ってもOK
*組合員でないお友達との参加もOK *事前申し込みは不要
*お茶代100円(大人のみ)をいただきます

編集後記

エスコープ大阪本部の書庫で探し物をしていっているときに見つけた「CO-OP泉北」という現在の機関紙のような発行物。エスコープ大阪の前身である泉北生協設立前の1969年10月1日に創刊されています(設立は1970年3月22日)。紙面には、課題解決に向けた活動や設立当初の勢いが感じられ、当時の組合員にとってはセンセーショナルな内容だったのではないかと思います。編集後記には、「他の業務が忙しくちゃんとした編集ができませんでした」という言い訳もあり、少し親近感も感じました。

組合員に今の情報を伝えることはもちろん、将来の組合員にも過去の活動の勢いや組合員の思い、情報をつなぐことができる機関紙の価値を再認識しました。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co バックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/

「大きく育て福祉の樹」では、エスコープ大阪の「たすけあい」のしくみ等について紹介しています。今回は、「エスコープ大阪の子育てひろば」についてお伝えします。



「多くの親子が訪れたいくなるような子育てひろば」へ

エスコープ大阪では2010年度に子育てひろばを開設し、8年が経過しました。自治体や他団体による開催が増える中、エスコープ大阪ならではの子育てひろばを毎月開催してきましたが、地域によっては参加者が集まらないこともあるのが現状です。そこで、子育てひろばへの参加者など子育て中の組合員を中心にアンケートをおこない、協力いただいた100名の回答をもとに、多くの親子が訪れたいくなるような子育てひろばについて考えました。



阪の消費材のお菓子や飲み物などを用意し、おもちゃは木製品を中心に用意しています。今後はさら

アンケートの回答によると、子育てひろばを選ぶポイントが「家から近いところ」という意見が多くありました。「魅力があれば遠い子育てひろばでも行ってみたい」という声もありました。そこで、エスコープ大阪の子育てひろばの魅力は何かと考えた時に、食育(ピオサポ)や木育をすすめている生協が主催しているということ、が他の子育てひろばにはない魅力ではないかと考えました。現在も、子育てひろばにはエスコープ大

みんなと一緒に子育てひろばをつくっていきまじょう

めざしていきます。気軽に各地域の子育てひろばに一度遊びに来てください。子育て中のご家族やお友だちにも声をかけてみてください。みんなで子育てをサポートしましょう。

※各地域で開催している子育てひろばは、本紙4面の左下にある一覧をご確認ください。

また、回答者の約8割の人は市区町村や他団体の子育てひろばに行ったことがあるが、エスコープ大阪の子育てひろばに行かなかった方が大半で、地域ニュースや機関紙での案内は読まれていませんでした。今後は紙面での案内だけでなく、インターネットを活用した案内も併せて検討していきたいと考えています。

また、回答者の約8割の人は市区町村や他団体の子育てひろばに行ったことがあるが、エスコープ大阪の子育てひろばを知らなかった方が大半で、地域ニュースや機関紙での案内は読まれていませんでした。今後は紙面での案内だけでなく、インターネットを活用した案内も併せて検討していきたいと考えています。

おたよりネット

「りっふる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

192号表紙『もっと一緒に野菜の話しよう』私たちの畑で』を読んで

紙面モニター Aさん

毎週地場の新鮮な野菜が届くのが楽しみで、ピンと活きのいいお野菜を愛でながらおいしくいただいています。この度の台風21号での被害や修復の大変さを、『菜心版』の「畑だより」で生産者さんが語っているのを読み、回復に向けて祈るしかない想いでした。しかし、今回の記事で援農隊サークルがあることや、ニュースで畑の状況を知らせてくれること、各地域で新しい品目を「菜食ファーム」と一緒にチャレンジすること、野菜を育てる場所としてだけでなく地域のコミュニティや働く場所になるようにと開かれていることなどを知り、可能性が広がる内容でワクワクした気持ちでいっぱいになりました。

192号4面「SDGsにみんなで取り組もう」を読んで

紙面モニター Bさん

気候変動の影響で台風の大型化や集中豪雨が多くなり、集団で移住を始めているキリバスという国があることを知り、驚きました。この問題を自分ごと化するためには、どのように取り組めばよいのかを考えさせられました。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
194号(2019.2.25)